

編集者の Hocking (2018) によると、第 25 卷 3 号の 11 編の論文は、社会政策、コミュニティにおける流動的な態度や取り決め、そして、作業へのアクセスが定まらない人々がどのように作業とつながるかを示している。本書評では、雇用問題に関する 1 編、障害の有無に関する 1 編、transaction に関する 1 編、作業科学の教育に関する 1 編を紹介する。

Halloran, Farnworth, Innes & Thomacos (2018) は、失業とは社会的に述べた作業の種類であり、作業バランスと作業を通じた健康の機会を破壊すると述べている。失業のために健康が損なわれる場合の 3 つの解決策として、現在行われている失業対策 (Active Labor Market Policy) と、その代替案である職業保証 (Job Guarantee) と最低所得保障 (Universal Basic Income) をあげ、作業的視点を Wilcock & Hocking の枠組みで検討した。後者の 2 つは作業を通じた健康の機会に役立つが、貢献するためには作業科学者は経済や政治的問題の広い知識がなければならないことを示唆している。

Lindsay, Chan, Cancelliere & Mistry (2018) は、障害 (身体や発達) を持った若者と障害を持たない若者を対象に、ボランティア活動における作業の可能性を研究した。両群の若者はボランティア活動を通して、キャリアの興味や能力を探索し、必須の関連技能を磨いた。これらの経験は作業の可能性を高めることを指摘し、ボランティアは障害をもつ若者にとって重要な利益をもたらすことを示した。

Aldrich (2018) は、作業的公正のために Dewey の哲学のアプローチを用いることを紹介している。Dewey の哲学による transactional な視点は、作業科学において成熟が続けているが、筆者はコミュニティにもっと視点を向ける必要があると考えている。作業と associated living という Dewey の概念と結びつけることによって、作業的公正について説得力のある方向性を示すことが可能になると述べている。

Huot, Raanaas, Rudman, & Grimeland (2018) は、人々の生活、健康と健康感に影響を及ぼす複雑な社会問題の理解と社会変革に貢献するため、ノルウェーとカナダで行われた国を超えた大学間の教育において、作業科学と公衆衛生学を統合したパートナーシップの実践を検証した。結果、この経験は学生にとって、一貫性のある学術的な教育経験となり、国際的および学際的な教育のコラボレーションは、将来の研究者とヘルスケアの実践家の指導となり、作業の知識の研究や潜在的な影響を拡大できることを示した。

上記 4 編を含む本号の 11 編は、社会で生きるための「社会政策」、「コミュニティの中で
の処遇」、「作業とのつながり」に関する研究である。本号は、読者の作業の政治・社会的な側面のさらなる理解を助ける。さらに、人々の健康・健康感に貢献するためにはどのように作業とつながり、どのような取り組みが必要かについて提言している。

馬場博規 (磐田市立総合病院), 小田原悦子 (自宅所属)

文献（引用順）

David O'Halloran, Louise Farnworth, Ev Innes & Nikos Thomacos（2018）.

An occupational perspective on three solutions to unemployment.

Journal of Occupational Science, 25(3), 297-308.

Sally Lindsay, Emily Chan, Sara Cancelliere & Monika Mistry（2018）.

Exploring how volunteer work shapes occupational potential among youths with and without disabilities: A qualitative comparison.

Journal of Occupational Science, 25(3), 322-336.

Rebecca M. Aldrich（2018）.

Strengthening associated living: A Deweyan approach to occupational justice

Journal of Occupational Science, 25(3), 337-345.

Suzanne Huot, Ruth Kjærsti Raanaas, Debbie Laliberte Rudman & Jorid Grimeland（2018）.

Integrating occupational and public health sciences through a cross-national educational partnership.

Journal of Occupational Science, 25(3), 397-407.

翻訳協力者：

鴨藤菜奈子（びあクリニック）

西野歩（煌めく返り花プロジェクト）

馬場博規（磐田市立総合病院）

中村拓人（神奈川県立保健福祉大学）

坂上真理（札幌医科大学）

西方浩一（文京学院大学）

高島理沙（北海道大学）

中嶋克行（YIC リハビリテーション大学校）